



2025年

6月の新着絵本



6月14日(土) 貸し出し開始

あさいち	朝市は、海でとれたもの、畑でとれたものを持ちよる商いの場。そこには潮のかおりと土のにおいがたちこめていて、人びとにとって楽しいおしゃべりと社交の場でもあります。石川県「輪島朝市」の活気ある風景を描いた、1980年刊行の本作品。
大石 可久也	

おべんとうバス	お弁当の食べ物が返事をしながら次々に乗り込んでくるバス。 食べ物大好き、乗り物大好き、お返事大好きな子どもたちにぴったりです。
真珠 まりこ	

たべたのだーれだ？	チーズにぽっかりあいた穴。穴から誰かの顔がのぞいています。「チーズを たべたの だーれだ？」ページをめくると、現れたのはねずみの家族。ぶどうの穴からは、くまの親子が現れました。「たべたのだーれだ？」と、あてっこしながらページをめくるのが楽しい、穴あき絵本。
たむら しげる	

11ぴきのねことへんなねこ	11ぴきのねこが川で魚釣りをしていると、見たこともない水玉模様のねこが通りかかります。ねこたちが後をつけていくと、そこには何やら不思議な家が…。なんと水玉ねこは、宇宙からやってきたねこだったのです。
馬場 のぼる	

モノポの巣	森じゅうの小えだをひとりじめして、ほかの鳥たちにいじわるばかりしていたモノポは、気づいたら、おおきな巣のなかで、ひとりぼっち。あらしがやってきたつぎの日、モノポは森の鳥たちに、1通の手紙を書きました。
山田 和明	